

# 授業科目 地域看護活動演習Ⅰ

【担当教員名】		対象学年	2	対象学科	看護
宇田 優子、杉本 洋、島貫 秀樹		開講時期	前期	必修選択	必修
		単位数	1	時間数	30
【カリキュラムポリシーとの関連性】					
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	
○	○	○	○	○	
【概要・一般目標：G10】					
地域看護を展開する上で必要な能力である、情報収集、アセスメント、健康課題の抽出、計画立案、実施・評価という一連の過程について演習を通して学ぶ。					
【学習目標・行動目標：SB0】					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域特性を把握し、健康課題を抽出することの意義を説明できる。</li> <li>2. 地域特性や健康ニーズを把握するための指標を具体的に説明できる。</li> <li>3. 既存資料から得られた情報の分析結果を客観的に説明し、記述できる。</li> <li>4. 地区踏査や住民からの情報と健康との関連を考察できる。</li> <li>5. 地域の健康ニーズを把握するための方法を説明できる。</li> <li>6. 計画立案、実施・評価の一連の過程を理解できる。</li> </ol>					
回数	授業計画・学習の主題			SB0 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	地域看護活動における地域アセスメントの意義が理解できる。			1	講義
1-2	地域の健康ニーズを把握するための指標が理解できる。			2-5	講義・グループワーク
3-6	地域の健康ニーズを把握するための指標を理解し、問題を抽出できる。			2-5	講義・グループワーク・発表会
7-8	地域の健康ニーズを把握するための方法が理解できる。			2-5	講義（保健師、民生委員、町内会長などによる講義）
9-10	地区踏査の実際			5	グループワーク
12-14	地域の健康課題を抽出し優先順位が考えられる。			5	グループワーク・発表会
15	まとめ			1-5	グループワーク
授業内容や順序は変更する場合があります					
【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>	
教科書 (必ず購入する書籍)	国民衛生の動向	厚生統計協会	厚生統計協会	2010・2,400円・1年次に購入したものを使用する	
	三訂 地域看護学	津村智恵子	中央法規	2009・1年時に購入したものを使用する	
	新版 保健師業務要覧 第2版		日本看護協会出版会	2008・5,040円・1年次に購入したものを使用する	
参考書					
その他の資料					
【評価方法】		【履修上の留意点】			
出席状況や演習への取り組み、筆記試験、レポートを総合的に評価する		<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年後期に行われる実習に向けて、専門的な演習を展開するので、グループワーク等においても積極的に参加すること。</li> <li>・PC（エクセル・ワード、パワーポイント）を利用して、表やグラフなども作成することもあるので、90分の授業で使えるよう、バッテリーの充電をしておくこと。</li> </ul>			